

25年前、吉本新喜劇が海外公演に挑戦しました。結果は大成功！島木譲二師匠や池乃めだか師匠の分かりやすい笑いは、大爆笑を客席にもたらしました。

当時、若手芸人であった私は、この言語の壁を越えた大成功に感動し、海外公演のメンバーでもないので、心の中で「自分なら何ができるのか？」という問いを持ちました。

その後、海外公演の機会もなく芸人の世界を離れ、小学校教員、科学館職員を経て、大学教員とな

② 言語の壁越える



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

りましたが、その問いは今でも持ち続けています。



私は、科学館や子どもたちが集まるイベントなどでサイエンスショーをしています。科学実験は見ただけで分かりやすく、老若男女問わず全ての人たちに理科の楽しさを伝えることができます。

「科学実験は、吉本新喜劇と同様に言語の壁を越えるかもしれないな

科学実験×英語教育に手応え

い」。そう考え、タイやアメリカでサイエンスショーや理科の授業に挑戦しました。楽しい実験のおかげで、すっかり海外の子どもたちにも楽しんでもらえました。お恥ずかしい話ですが、私は英語が得意ではありません。しかし、科学の楽しさは言語の壁を越えてしっかりと伝わりました。その手応えから「科学実験を日本の英語教育に取り入れることはできないかな？」という新たな問いが生まれまし

た。

現在、英語教育の先生と共同で小学校理科の授業を英語で行う「英語×理科」に挑戦しています。写真。海外での経験を生かし、言葉なしでも十分伝わるレベルの

分かりやすく楽しそうな実験教材の研究を行い、昨年度から小学校で実践を開始しています。もともと言語がなくても伝わるような仕掛けなので、英語が苦手な子どもたちも、取り残されることなく、授業に参加できます。逆に理科が苦手な子どもたちは英語をヒント



に理解を深めることもできます。相互に補い合うことのできる「英語×理科」に楽しく分かりやすい

理科実験というエデュテイメントの要素を加えると無限の可能性があると感じました。



昨年10月から、テレビ大阪の「120秒の科学」という番組の実験監修を担当しています。この番組は、ナレーションなし・テロップなしをコンセプトとしており、実験を映像のみで理解できるように構成しています。今までの取り組みの成果を生かして、最終的には世界中の子どもたちが楽しく学ぶことができる授業をつくっていきたいと考えています。